

# 郷土を誇りに

## 【4年 総合的な学習の時間 -ふるさと「広」を知ろう-】

2月1日（月）、広の町のことを知り、郷土を誇りに思う子供になってほしいという願いのもと、4年生を対象に「呉市広町郷土歴史講座」を開いていただきました。講師としてお迎えしたのは、広郷土史研究会会長の上河内良平さんと、副会長の野間秀樹さんです。上河内さんは、本校の卒業生ということで、当時の校舎や子供達のことについても話してくださいました。上河内さんは、この日のために、4年生向けの資料やプレゼンテーションを用意してくださり、広にまつわるいろいろなことを教えてくださいました。例えば、広村が日本一であったこととして、明治30年に水力発電所をつくり、日本の工業の発展の基礎を築いたこと。また、模範村として表彰されたこと等、広に住む人達がどれだけ立派だったかを聞かせてくださいました。

一方、明治17年に広村を襲った台風、高潮により、破壊的被害を受け、その時のことを記した「鷹懲碑」があり、この度、呉市広市民センター北面庭に移転したこと等も伝えてくださいました。

今回の学習をきっかけに、ふるさと「広」について関心をもち、郷土を愛する心豊かな子供に育ててほしいと思います。

明治17年8月25日、台風による2mを越す高潮で広村は壊滅的被害を受ける。村民はこの事を天からの戒めと受けとめ記録としてこの石碑を建立した。その後、広村は奇跡的な復興を遂げる。この壊滅的な被害状況と奇跡的な復興を見届けた石碑の変遷を本誌に記録した。

今回の学習のために、上河内さんがまとめてくださった資料より



鷹 懲 碑

